



## 事業内容

地域における文化の振興を支援するため、都道府県、市町村および当財団の三者共同主催により、各地の公立文化ホール等を会場として、地域の皆さまへ廉価で質の高いコンサートを提供します。公益目的事業として、費用の一部を負担することとともに、コンサートには当財団職員が必ず同行し、コンサートを開催するノウハウ（ソフト面）を同時にお伝えすることも行っています。そのため、コンサートを開催したことのない会場においても円滑に運営することが可能です。一人でも多くの方にコンサートへ足を運んでいただき、生の演奏に触れ、音楽を好きになっていただき、地域に音楽を楽しむ風土を培っていただくことを目指しています。

- 令和2年度末の累計公演数 897回 ※同年度初における計画値
- [令和2年度開催予定表](#)（PDF：186KB）
- [令和元年度コンサート・写真で見るこの一年～コンサート・交流プラン風景～](#)（PDF：2MB）



ザ・チェンバーブラス（金管五重奏）



モルゴーア・クアルテット（弦楽四重奏）

## ロゴマーク



財団設立 30 周年記念事業として、「三井住友海上文化財団 ときめくひととき」公演のロゴマークを制作し、平成 30 年度より、コンサートのチラシやプログラムに掲載しています。

「ト音記号」と「ヘ音記号」の中心に日本地図を据え、全国各地に音楽と感動を届ける本事業のコンセプトを表現しています。また、音楽を親しみやすく感じられる様に、柔らかなデザインとしました。



公益社団法人企業メセナ協議会による企業・企業財団が実施するメセナ（芸術・文化を通じた豊かな社会創造）活動の認定制度「[This is MECENAT](#)」に、2016 年から 5 年連続で認定されています。

## コンサート開催までの流れ/スケジュール

### ・ 公募から決定まで

8 月上旬～9 月末日	翌年度の「地域住民のためのコンサート」（「三井住友海上文化財団 ときめくひととき」公演）開催地を公募 （例：令和 3 年度の開催地は、令和 2 年 8 月上旬に公募開始予定） 市町村または市町村教育委員会から都道府県文化担当部局課へ申込書類をご提出いただき、都道府県毎に当財団へお申込みいただきます。 詳細は <a href="#">開催地募集</a> をご参照ください。（公募開始時に募集資料を掲載します。）
10 月中旬	当財団にて選考の上、選考結果を通知
10 月下旬～12 月	決定した開催地のコンサート開催日の希望調査、出演演奏家との調整、決定

### ・ コンサート準備から終了まで

コンサート開催月の約5カ月前	主催者および出演演奏家による事前打合せ 場所：当財団事務所（予定）
コンサート開催日まで	印刷物作成、広報活動、チケット販売、会場準備等
コンサート開催日	当日運営 コンサート期間は当財団職員（通常 2 名）が出演演奏家に同行します。
コンサート開催月の翌月末	事業報告書提出

## 交流プラン

地域の皆さまが出演演奏家とより身近に交流できる機会として、コンサートの開催に併せて交流プランを用意しています。一流の演奏家との交流を通じて、日頃とは異なる音楽体験や学びの場として楽しんでもらうことを目的としています。

### ・ 共演

学校の部活動、一般の合唱や吹奏楽の団体が、コンサートの開演前やアンコール等で出演演奏家と一緒に演奏。プロの演奏家と同じ舞台上立つことができる貴重な機会です。



サクソフォン共演（サクソフォン・須川展也）



合唱共演（フルート・工藤重典）

### ・ 鑑賞教室

学校の体育館等において、授業の時間に実施するコンサート。一流の演奏で生の音楽に触れることができます。



中学校体育館（N 響メンバーほか）



小学校体育館（ソプラノ・天羽明恵）

### ・ 子どもミニコンサート

一般のコンサートには入場できない未就学児と保護者が一緒に楽しむことができる 60 分程度のコンサート。



0 さいからの子どもミニコンサート（N 響メンバー他）こどものためのコンサート&ワークショップ  
（チェンバロ・中野振一郎）



## ・ クリニック

学生や一般の方々が対象の、声楽や楽器のグループレッスン。基礎練習や楽器のメンテナンスの方法、悩み相談等、普段は聞くことができないポイントをプロの演奏家から直接学ぶことができます。



吹奏楽指導（アミューズ・クインテット）



マリンバ指導（パーカッション・加藤訓子）

## ・ マスタークラス

一定の演奏レベルを有する学生や一般の方々が対象の公開レッスン。聴講者も演奏や指導方法を学ぶことができます。



弦楽アンサンブル指導（N 響メンバーほか）

## ・ 知ッ得マナー

初めてのコンサートでも安心して出掛けられるように、そしてより楽しく豊かな時間を過ごせるように、コンサートのマナーをご紹介します。

[知ッ得マナー](#) (PDF : 811 KB)

「三井住友海上文化財団 ときめくひととき」公演

みんな楽しく聴くための

### 知ッ得マナー

よくある言い回し。それなぜ！？

- 「**場内での飲食・喫煙はご遠慮ください。**」  
日本も海外もほとんどのコンサート会場で、飲食および喫煙は禁止になっています。日常を忘れて音楽を楽しみたいときに、隣の席から食べ物のにおいやガサガサと音がしたら…集中できなくなってしまうですね。お茶等はロビーやラウンジで、休憩中にご覧ください。
- 「**カメラ、携帯電話での写真撮影・録音・録画はお断り申し上げます。**」  
シャッター音やフラッシュは真剣に音楽を聴いている人の邪魔者になります。また、出演者の肖像権侵害になるので、潔い気持ちでお願いします。
- 「**携帯電話やスマートフォンなどの電子機器の電源は、予めお切りください。また、時計などのアラームは解除くださいますよう、お願い申し上げます。**」  
着信音やアラームは、折角の良い音楽を妨げてしまいます。(一部のスマートフォンは機内モードでもアラームが鳴ります！) また、コンサート会場では、ハイブレーションの振動音も意外と響きます。さらに、開演中の会場内は暗いため、液晶画面の光が目立つのです。ゆつたりと音楽の時間を楽しまれるように、マナーモードや機内モードではなく必ず電源は切りましょう。
- 「**演奏中の入退場はご遠慮ください。**」  
ドアの開閉や席の移動は、定刻に来て良剣に聴いている人の楽しみを奪うこととなります。物音がしたり、動き回ったり、明かりが差し込んだりすると意識が「動く方」にいつの間にか移ります。演奏が始まっていたら、一曲が終わるまでドアの外でお待ちください。曲間やトークの間に席についていただけます。その時まで、スタッフの案内をお待ちください。

みんな楽しく聴くために・・・♪

- 「**周りが静かでも聴きえない・・・？**」  
コンサートでは、心を落ち着けてゆつたりとした気持ちで音楽を楽しんでいただきたい(それが音楽！)と出演者もスタッフも願っています。「私一人くらい大丈夫…」と思ったヒソヒソ話やプログラムのガサガサ音、実はとっても遠くの人にも聞こえています。せっかくの雰囲気壊さないために、ちょっと心配りしてみてください。もちろん生理現象である咳はしても大丈夫。ハンカチをお口に添えて、できるだけ大きな音がしないように。ただ、あまり止まらないときは、一度ロビーの新鮮な空気を吸ってお休みください。落ち着いたらまた客席でゆつたりお楽しみください♪ (曲と曲の間でね！)
- 「**もし雨がふっていたら・・・？**」  
映画館は傘ホルダーが座席の背に付いていることがありますが、コンサートの会場では見たことがありません。会場入口の傘立てを利用するか、傘袋に入れて場内へ持込みます。持込みの場合、長い傘は自身の足下か座席下に横にして置いてください。前の座席に立てかけると、「パタンッ！」と大きな音を立てて一気に注目を浴びること間違いなし…。

- 「**演奏される曲を知らないのでも楽しめない！？**」  
そんなことはありません。「曲名は知らなかったけど、聴いたことのある曲だった」ということもよくあります。また、知らない曲でも「今日知った」ということになるのです。いくつかの楽器で演奏するアンサンブルの時は「主役」が移っていきます。主役がメイン・メロディを弾いて、他の楽器が伴奏者になります。「次の主役は誰？」と探し当てながら聴いてみてはいかがでしょうか。ソロ演奏の時は演奏者の表情や動きも見て、「楽しいの？」「悲しいの？」と想像してみてください。
- 「**いつ拍手をして良いの・・・？**」  
拍手はお客さまから出演者への意思表示。拍手の音が大きければ大きいほど「演奏が良かった！」「サイコー！」という意味になります。短い曲や有名な曲であれば終わりがわかるけれど、長い曲だとどうして良いかわかりにくいですね。拍手をするタイミングがわからないときは、座っていた出演者が立ち上がったときや、立ち演奏ならばお辞儀をするときに、盛大に拍手をおくりましょう。また出演者がそのまま退場するときは、舞台袖に戻る最後まで温かく見送しましょう。
- 「**音のない“間”とは・・・？**」  
演奏終わりの「音のない空白の時間」・・・その“間”もまた大事な演奏の一部なのです。歌い手が声を出し切って、ふっと我に返って普通の息をし始めたとき、演奏者の腕の力がふっと抜けて下に脱力されたとき、この瞬間まで演奏は続いています。その「ふっと息が抜けた瞬間」に思わず拍手を打ちたくなくなる・・・その自然な気持ちで良いのです。誰よりも早く拍手を打ち始める！というは、通のようでも通でない！

舞台ウラ事情 ～マナーからちょっとはなれて～

- 「**あれ？ 開場しているのにステージでは調律中・・・？**」  
ピアノはとても繊細な楽器で、ステージの照明やお客さまの人数・洋服によって会場の気温や湿度が大きく変化し楽器も影響を受けます。お客さまに1番良い音で演奏を聴いてもらうために、調律師は開演直前まで調整をしているのです。
- 「**舞台転換はなんてご舞い**」  
次の曲のためのステージセッティング。曲によって違う楽器が必要だったり、場所を移動したり、照明のタイミングをはかたり。一見、涼しそうなステージですが、舞台袖では次の準備で緊張しています。
- 「**プログラムにはないおまげがあるかも・・・？**」  
当日会場に配布されるプログラムには、レストランのメニューのように演奏される曲名がずらりと並んでいます。全部の演奏が終わっても、「良かった」という気持ちをアピールする拍手を続けていると、出演者が再度ステージに現れます。すると拍手のお礼の意味を込めてプレゼント演奏をします。これが「アンコール」です！通常1～2曲を演奏します。しかし、拍手がないと演奏したくてもできないのです。ステージ上のドアが開まらなかったり、舞台の照明がなかなか消えなかったりしたら「アンコールがあるかも！？」とちょっと期待を込めて拍手をしてみてください。

これであなともマナーの達人！協力合って、みんなできめくひとときを♪

公益財団法人 三井住友海上文化財団

## これまでの開催実績

- [平成27年度](#) (PDF : 133 KB)
- [平成28年度](#) (PDF : 128 KB)
- [平成29年度](#) (PDF : 191 KB)
- [平成30年度](#) (PDF : 182 KB)
- [令和元年度](#) (PDF : 184 KB)

全コンサート開催実績は [こちら](#)